

AV情報スクランブル

Audio Visual Information
Scramble

◆主要記事◆

- ◆「第1回インターネット活用教育実践コンクール」
- ◆才能開発教育研究財団「第27回教育工学研修中央セミナー」
- ◆第9回大図研オープンカレッジ
- ◆「教育ソフト利用研究会」毎月第3土曜日にCECで開催
- ◆日本教育メディア学会「2000年度第2回研究会」開催
- ◆日本教育工学会「平成12年度シンポジウム」を開催
- ◆日本視聴覚教育協会が英文資料「AVE IN JAPAN No.38」を発行

A V 情報

「第一回インターネット活用教育実践コンクール」

インターネット活用教育実践コンクール実行委員会（事務局・日本視聴覚教育協会内）では、学校教育・社会教育において、情報の受信・発信・交流といった特性を生かしつつ、インターネットを、優れて有効・総合的に活用し、教育の質の向上に資する斬新で汎用性のある実践事例を広く募集する。

1・部門

学校教育部門（国公立の小・中・高等学校・大学等の学校、企業・研究グループ等の団体又は教職員・児童生徒等の個人）
社会教育部門（社会教育施設、企業・研究グループ等の団体又は社会教育指導者、社会教育施設関係者・利用者等の個人）

2・応募方法

指定の 応募様式及び、実践事例報告書を以下の要領で提出（郵送、メール送信のいずれでも可能です）。

応募様式に必要な事項を記載すること（なお、応募様式は、

<http://www.netcon.gr.jp>からダウンロードが可能）。

実践事例報告書には、以下に掲げる記載事項を、A四（縦長横書き）六〇〇〇字程度にまとめる。図表・写真等の附属資料を添えることも可能。

部門・学年等/実践のねらい/特徴・工夫・努力した点/実践内容/実践結果/考察（今後の課題）

なお、実践事例報告書の著作権は本コンクール実行委員会に帰属するものとする。

3・審査方法

第一次審査 提出の実践事例報告書を書面審査。第二次審査 第一次審査を経たものについては、現地取材により各一〇分程度のビデオを作成し、これによる審査で各賞を決定する。

4・賞

内閣総理大臣賞 両部門を通じて一件、文部大臣賞 学校教育部門・社会教育部門から各一件、通商産業大臣賞 両部門を通じて一件、郵政大臣賞 両部門を通じて一件、朝日新聞社賞 両部門を通じて一件、インターネット活用教

●ブック・レビュー

「翼をもったインターネット 学校・教室 そして授業で 影戸 誠著、日本文教出版株式会社、二〇〇〇年三月刊、A五判、二二三頁、一八〇〇円

インターネットと国際交流活動に関することが書かれている。

読み始めると、プロバイダー料金のことから校内ネットワークの接続ケーブルの制作、参考になる実践校のホームページの解説、リアルタイムセッションのための事前指導・・・と非常に細かなところまで具体的な話が及ぶ。決して技術の解説だけを意図したものである。読み進むにつれて、語りかけてくる著者の顔が次第に見えてくる。著者は、本文の中で、「インターネットは、情報だけでなく、よりよい教育を実現させようとする『熱意』もあわせて送り込みます。」と述べる。そうした熱意が、本書からもはつきりと伝わってくる。インターネットの活用や国際交流に関わっている者あるいはこれから関わろうとする者にとっては、それは大きな支えとなるはずである。すべて著者の



実践的な体験から生まれてきた言葉だからであろう。ところどころに挿入されている、打ち合わせのためのメールや生徒の感想も、読む者を熱くさせるものがある。

一方で、教師という仕事の創造的な面を存分に見せつけられているようにも思う。インターネットや英語が「指導すべきもの」ではなく、生徒の夢を育て、自己実現するための道具になっている。教育の世界を広げる力になっている。「いきなり学校のネットワークは大人になれません。幼児期もあれば青年期もあるのです。長いタームで育てていく方がよいのではないでしょうか。」と著者は述べている。自分の実践をこつた目で育てている教師は幸せであろう。また、そうした教師の力が教育改革を実質的に推進していくのだと思う。

(土橋 永一)

育実践コンクール実行委員会賞
両部門を通じて数件

5・募集期間

平成二二年六月一日(木)～九月二九日(金)

6・発表と表彰式(予定)

第一次審査結果発表 平成二二年一月、第二次審査結果発表

平成二三年二月

7・表彰式 平成二三年二月

8・応募先(事務局)

(財)日本視聴覚教育協会内インターネット活用教育実践コンクール実行委員会 〒一〇五 〇〇〇

一 東京都港区虎ノ門一 一七

一 電話〇三 三五九一 二二八

六 E mail:info@netcon.gr.jp

URL:http://www.netcon.gr.jp

なお、本誌七頁の同募集要項も参照いただきたい。

研究会 情報

才能開発教育研究財団「第二七回教育工学研修中央セミナー」

(財)才能開発教育研究財団では、「進む教育改革、特色ある学校づくりとメディア活用の視点

移行期における『総合的学習』の実践の進め方」を研修主題に、

七月二五日(火)・二六日(水)の二日間、東京都品川区立総合区民会館において標記セミナーを開催する。

1・内容

基調講演「新教育課程の完全実施につなぐ、移行期の授業実践をどう構想するか」水越敏行氏(関西大学教授・大阪大学名誉教授)

記念講演「基礎・基本と課題選択の授業をどう調和させるか」これからの教育評価の方向性」山極隆氏(玉川大学教授)

対談「すべての教室にインターネット活用時代がやってくる。その環境整備と教育コンテンツの構築の発想はどうあるべきか」永野和男氏(聖心女子大学教授)、赤堀侃司氏(東京工業大学教授)

他に総合的な学習及びインターネットの各セッションと、課題スベシャル講演、シンポジウムも行われる。

2・参加費 一八、〇〇〇円

3・問い合わせ

〒一四五 八五〇二 東京都大田区上池台四 四〇 五(財)才能開発教育研究財団 教育工学研究協議会セミナリ係 電話〇三三

「放送学研究」49 特集・21世紀の放送にむけて 日本放送協会放送文化研究所編、丸善プラネット、二〇〇〇年三月刊、A五判、一一七頁、一五〇〇円

「放送学研究」はNHK放送文化研究所による学術的な逐次刊行物である。本号は新しい世紀を目前にして、大きな転機にある放送のいくつかの側面を検討することを旨として編集された。

収録されているのは四編の論文であるが、ここでは巻頭の「テレビメディアの意味論 断章三つ」(中野収)に焦点をあてて紹介しよう。近年コンピュータ関連の新しいメディアが次々と登場して情報環境が変化しつつある。またテレビのような映像メディアそのもの意味も拡大してきている。その中で「テレビメディアの意味を問い直す」とするものである。ただし筆者も断っているように、この文章は論文というよりも「サイセイ風」のものであり、それだけに読者が問題を見直すよい手掛かりを得やすいともいえる。

この文章の中で、筆者はテレビメディアの発展を追いながら、娯楽性



情報性、コミュニケーションの媒介性など、多様な意味をあわせもつようになったこと、またテレビが単なる「現実のコピー」というのにとどまらない世界を提示する意味をもっていることを指摘している。

もうひとつ筆者は「視聴率」を論じ、「メディア空間」と呼ぶべき社会的な枠組を捉えるのに、視聴率が、ひとつの、しかも現在のところ明確な拠り所をもつ指標である、という。とらえにくい視聴「質」もさることながら、やはり「たかが視聴率」、「されど視聴率」なのではないかと論じている。

この中野氏の文章を下敷きにして読むと、伊藤守氏の「テレビ・オーディエンス」に関する論文、長い間テレビ番組制作に関わった岡崎栄氏の文章、濱田純一氏の放送制度・放送法制に関する論稿は示唆に富んでみえる。(高桑 康雄)

●ブック・レビュー

七二六 八一七二 <http://www.gakken.co.jp/sainou/home.html>

第九回大図研オープンカレッジ

大学図書館問題研究会(事務局・

横浜国立大学附属図書館・大石博

昭氏)は、「電子図書館時代の図書館員パート3 電子ドキュメントと

のつき合い方」をテーマに、以下の要領で標記研究会を開催する。

1・日時

六月一〇日(土)一五:〇〇~

一八:〇〇

2・会場

文京女子短期大学視聴覚教室

(NAVAC)

3・内容

講演「電子ドキュメントとのつき合い方」木本幸子氏(大妻女子

大学助教授・元紀伊國屋書店電子情報部)

事例報告「ファクティバの新サービスが提案する情報活用」島方

敏氏(ファクティバ ダウジョー

ンズ&ロイター セールスマネージャー)

4・参加費

一五〇〇円(大図研会員・学生

一〇〇〇円)

5・問い合わせ

〒三四三 八五一 埼玉県越谷市南荻島三三三七 電話〇四八

九 七四 八八一(内線三五九)

文教大学越谷図書館・担当石井氏

「教育ソフト利用研究会」毎月

第三土曜日にCECで開催

本誌一月号より毎月実践を掲載

いただいている「教育ソフト利用研究会」(会長・市川伸一氏、東

京大学助教授)では、「教育ソフトの実践における活用法を検討することを通して、授業実践理論の

向上及び教育ソフト等の提言を行う」ことを目的に、毎月原則として第三土曜日の一五時三〇分から一八時までCECにおいて同研究会を開催している。

主な活動内容は、授業提案、

実践、実践報告を行い紀要を作成

新作話題教育ソフトの検討・紹介。

メーリングリストを活用した実践計画の議論・実践報告の継続的検討等を行う。現在は、小・

中・高・大学の教員と企業の方六

三名が会員となっている。

問い合わせ

(財)コンピュータ教育開発セ

ンター 担当・鈴木勢津子氏 電

話〇三 三五九三 一八一

二

- 67 -

トピックス

五月号から本誌表紙CG画像を制作、障害者に夢と希望を与える

『イメージ工房くまもと』

身体障害者がマルチメディア技術を習得する事で社会参加の機会を増やそうと、平成四年に通産省と労働省の支援を受けた地元財界によって設立されたのが『イメージ工房くまもと』である。熊本空港から目と鼻の先、熊本テクノポリスのちょうど中心にあるこの施設では、約二〇名の訓練生が、CAD、データベース設計、マルチメディアコンテンツ制作の三つのグループに分かれて、最新の設備を使った教育研修を受けている。

これまでに送り出した生徒の数は、既に五〇名を超える。修了生は皆地元企業で元気に働いている。中には工房に残って後輩の指導に当たるものもいる。指導者の中にも障害者がいるのがこの特徴である。考えてみれば、マルチメディア関係の仕事は椅子に座った作業が多く、(特に視聴覚にさえ問題がなければ)身体が不自由なことはさして大きな問題ではないのである。

ここでは皆、大変熱心に研修に



励んでいる。それはそうだが、これまでは地方で身体障害者ができる仕事は限られていた。ましてや、最先端のテクノロジを駆使するような仕事は夢物語だったのである。マルチメディアはこうした人々に大きな夢と希望を与えるやがてインターネットの普及によって在宅のままでも仕事が可能になるだろう。努力次第では、ひよつとしたら新しい自分の才能を見つけ出せるかもしれない。インターネットを通じて新しい人との出会いもあるだろう。夢は限りなく広がって行くのである。

皆さんも熊本方面へ行かれる機会があったらぜひ一度お立ち寄りください。きっと感激するはずである。

(坂井 滋和)

学会情報

日本教育メディア学会「二〇〇〇年度第二回研究会」開催

日本教育メディア学会では、「デジタル教育コンテンツ研究の展望」をテーマに、千葉市のメディア教育開発センターにおいて標記研究会を以下の要領で開催する。

1・日時
七月一日(土) 一三時～一六時

2・会場
メディア教育開発センター(研究棟二階・第一会議室)

3・研究発表

同研究会では、教育コンテンツにかかわる研究者、実践者の認識を深める場として、マルチメディアを利用した教材、データベース等、それらのデザイン理論、開発、利用、評価に関する研究を募集する。

4・日程

一三:〇〇研究発表(四～六件) / 一五:〇〇～一六:〇〇全体討論「今後のデジタル教育コンテンツの品質と機能」

5・発表申込み・問い合わせ

〒二六一〇〇一四 千葉市美浜区若葉二 一一二 メディア教育

開発センター 担当・宮本友弘氏
電話〇四三 二九八 三二六三
Eメール: tm@nime.ac.jp

日本教育工学会「平成二二年度シンポジウム」を開催

日本教育工学会では、新しい時代に対応した教員の資質とその育成 新学習指導要領の実施を前にして「をテーマに、六月一〇日(土)、東京工業大学において次の要領で標記シンポジウムを開催する。

1・日時

六月一〇日(土) 一三:〇〇～一七:〇〇

2・会場

東京工業大学・百年記念館三階
フェライト会議室

3・内容

基調講演「教育改革と地方教育行政の役割」山極隆氏(玉川大学)
シンポジウム「新学習指導要領における教師の資質と教師教育力」リキユラム「パネリスト 奈須裕幸氏(国立教育研究所)、吉崎静夫氏(日本女子大学)、永野和男氏(聖心女子大学)、岡本敏雄氏(電気通信大学)」

4・参加料・方法

無料(資料代一〇〇〇円)、参

●ソフトウェア

日本コロムビア
「子どもにウケる科学手品」ビデオ
才全三巻・各三〇分

理科が苦手でも実験や手品は大
好きという子どもは多い。

このビデオは七三万部というヘ
ストセラーになった子どもにウケ
る科学手品77(後藤道夫著・講談
社刊)を元に制作されたもので、
どこにでもある身近な物しか使っ
ていないのに、アツと驚く不思議な
現象を、楽しく分かりやすく解説
している。書籍ではイラストで説
明されているが、映像化されるこ
とによって物体の動きが実感でき、
「なぜだろう?」「ホントかな?」と
自分で試してみたくなる。

子どもたちと博士を主人公にし
たアニメーションによるストーリ
展開と、実写による解説がとて
も親しみやすいこの作品は、「工
作の巻 身のまわりにあるもの
」「不思議の巻 ダイニングに
あるもの」「超能力の巻 親子
で楽しむ」の全三巻からなっ
ており、それぞれに七編の手品が入
っている。また、家庭や学校で実



践出来るように、各巻には「この
ビデオで取り上げた科学手品のテ
ーマとコツ」も添えられており、
失敗なく出来るポイントが記載さ
れている。

例えば空缶や五円玉を使って
共振 についてを学んだり、ゴ
ム風船を用いて 高分子の性質
についての理解を深められる。

親子で共に楽しめる実験は、コ
ミュニケーションツールにもなる。
理論や原理も大切だが、授業の中
でこんなに楽しく「科学」を表現
してみたら、理科嫌いが少しは減
るかもしれないのではないだろう
か? (三浦 佳子)

価格 各巻三三〇円(税別)
問い合わせ
日本コロムビア(株)宣伝部
〒一〇七 八〇一一 東京都港区
赤坂四 一四 一四 電話〇三
三五八四 八二四八

加申し込みは必要ない。

5・問い合わせ

〒一五二 〇〇三三 東京都目
黒区大岡山二 一三一 東京工
業大学教育工学開発センター内
日本教育工学会 電話〇三 五七
三四 二九九三

海外情報

日本視聴覚教育協会が英文資料
「AVE IN JAPAN No.38」を発行
(財)日本視聴覚教育協会では、
毎年日本の視聴覚教育に関するト
ピックスを一つ選び、それを英訳し、
国内外の関係各所へ配布している。

今年も、協会が実施している教
育メディアを活用した優れた教育
実践に対して贈呈する、視聴覚教
育賞(平成一〇年度)を受賞した
愛知県岡崎市立美川中学校と、視
聴覚教育奨励賞を受賞した長野
県上田市マルチメディア情報センタ
ーの実践を取り上げた(本誌一九

九九年一月号特別付録参照)。

内容は美川中が、高度情報通信
社会における生きる力の育成、ネ
ットワークの有効活用を通して、
上田市マルチメディア情報センタ
ーが、マルチメディアと生涯学習、視
る・聴く・創る・発信する「。タ
イトルは「Educational Practices
in an age of Information Innovation
Audiovisual Education Prize
Winning Papers in 1998」。A五
判、三五頁、一〇〇〇円。

短 信

(社)映像文化製作者連盟は、
五月一八日付けで文部・通産両省
から定款改定の認可を受け、翌一
九日、総会で役員改選を行い、会
長、副会長が次の方々に決まった。
会長有馬朗人氏(東京大学名誉
教授・参議院議員)

副会長筒井喜孝氏(電通テック
常務取締役)、辻功氏(カジマビ
ジョン代表取締役副社長)

計 報

東映(株)教育映像部長代理河
田富三郎氏は、五月一八日、食道
癌のため逝去された。享年五五歳。

アジアフォーカス・福岡映画祭と福岡市総合図書館の
フィルム・アーカイブ活動 その1

「福岡市とアジア映画」

福岡市総合図書館映像資料課 岩下 治巳

一九八九年三月、福岡市で「アジア太平洋博覧会（通称よかトピア）」が開幕した。市政施行の

百周年を記念したイベントであるが、総入場者数は八百万人を大きく超えたと記憶している。それまでの福岡市はどちらかというと東京を中心とした枠組みに取り込まれたごく普通の地方都市（いわゆる支店経済都市）に過ぎなかったが、この博覧会の開催と合わせて二二世紀に向けたまちづくりの方向性が大きく転換された。九州の中核都市としての基盤づくりに加え、歴史的・地理的に関係の深いアジアとの結びつきを重視し、「アジアの交流拠点都市」を目指すまちづくりが計画的に進められた。それまで脆弱であった都市基盤施設の整備が急ピッチで進められ、都心部を中心に街の様子が大きく変貌した。八十年代前半まで

の福岡を知る人には、街の変貌ぶりに大驚かされるに違いない。

また、これらの基盤整備と両輪をなしたソフト施策が「国際交流の推進」である。その中の代表的なものに「アジアマンス」という行事がある。この行事は博覧会終了後のポストアジア博として位置づけられ、多様な文化をもつアジア諸国に対する理解を深め、市民レベルでの交流を着実に進めるために実施されたもので毎年九月に開かれている。

一九九一年からスタートして今年で一一回目を迎えるが、「アジア太平洋フェスティバル」「福岡アジア文化賞」「アジアフォーカス・福岡映画祭」「アジアフレンドリーコンサート」をメインイベントに据え、映画・音楽・芸能・スポーツ・食文化といった多彩なイベントが市内各所で催されている。

福岡市民の生来のお祭り好き気質も手伝ってか、現在では約九万人を越す参加者があり、福岡の街全体がアジア一色に染まる三日間が繰り広げられている。

その中でも、特にユニークな行事として全国的な注目を浴びているのが、映画評論家の佐藤忠男氏がディレクターを務める「アジアフォーカス・福岡映画祭」である（今年は九月九日（土）から一日（日）まで開催予定）。

この映画祭では、日本未公開のアジア映画の秀作等を中心に上映プログラムが組まれているので、この映画祭で紹介されたアジアの若手監督に対して新たな共同製作の話が持ち込まれることなどもあり、アジア映画の普及・振興に少なからず貢献しているといえる。そもそもこの映画祭は、映画の上映を通してアジア文化に対する市民の国際理解の促進や文化交流の推進を図ることを目的として開催されているが、国内外の映画関係者から高い評価を受けた本格的な国際映画祭として定着している。

現在、アジア映画は国際マーケ

ットからも大きな関心が寄せられているが、当時は香港や中国といった一部の地域の映画しか知られていなかった。それがこの一年ほどで韓国やインド、イラン、ベトナム、フィリピンなどのアジア諸国の映画などもよく知られるようになってきた。これも佐藤ディレクターをはじめとする映画祭関係者の弛まぬ努力の賜物といえよう。そして、この映像イベントを福岡市の国際交流施策の柱の一つとして鋭意実践してきた市関係者の先見性も見逃してはならない。

今回は、映画祭と図書館の関係詳しくお知らせする。



アジア太平洋フェスティバル 99
「アジアパレード」

●教育ジャーナル

デジタル・デバイド是正が課題に

飯塚 健次

さきごろ東京で開かれたサミット（主要国首脳会議）に参加する八か国の教育担当相による「G8教育担当相会合（教育サミット）」では、「変容する社会における教育面での挑戦」など四つのテーマで議論がされた。議長サマリー（総括）では情報技術の進歩で教育がポータラレス化する中で、文化の多様性の維持とともに、先進国と途上国との教育・情報面での格差是正が課題になっていることが確認された。

教育問題はこれまで各国の内政問題とされてきた。しかし、情報通信技術（ICT）の発達などで、教育面でもポータラレス化が進んでいる。来る七月には沖縄で沖縄サミットが開かれるが、議長国となる日本はこれを「EIT（情報技術）サミット」と位置づけて、国や階層をこえてEIT革命の恩恵を広く受けられる環境づくりの重要

性を訴えることにしている。今回初めて開かれた教育サミットは、沖縄サミットで各国首脳が教育をテーマに議論する際の参考にするために開催されたという側面もあるわけだ。

米国では、インターネットを利用した大学がすでに開校されており、情報技術革新の影響は教育分野にも及び、国の枠を超えた市場化の波がもうすぐそこまで来ているのが現実だ。

初の「教育サミット」では、「進展する情報技術を生涯学習などの国際間連携に生かす方策」「教育のポータラレス化への対応策」「いじめや不登校、少年非行の増加などへの対策」「留学生や研究者の交流の拡大策」などについて意見交換された。

合意された内容は議長サマリー

に盛り込まれている。四つのテーマのうち「変容する社会における教育面での挑戦」では、各国共通の課題として、豊かさの中で若者が目的を見失っている「コミュニティや家族のきずなの弱まり児童・生徒の学習の遅れ、欠席や退学、非行などが挙げられた。そして各国が目指すべき目標としては、社会人としての生活に必要な知識や技術と同時に、倫理的な態度などを身につけさせること、学力を向上させること、生涯学習へのアクセスを広げることなどが奨励された。

「生涯学習と遠隔教育」のテーマでは、ポータラレス化する教育活動の教育システムへの影響を専門家会合を開いて検討していくことや、インターネットや衛星通信の活用では、開発途上国と協力しつつ、大学間の協働を提案。さらに「教育革新とICT」については、デジタルデバイド（格差）を減少させるために効果的な実践事例を共有することなどを求めた。

今回の教育サミットで焦点の一

つになったのが、EIT（情報技術）の急速な発展への対応の問題だ。わが国では、学校教育へのコンピユータの導入など、ハード面での進展は著しいが、情報教育の中身のレベルアップはまだこれからの課題になっている。教育サミットでは、工業社会から知識社会への変化に対応できない人が情報格差（デジタルデバイド）によって疎外される危機に直面していることへの指摘が目立った。学習機会の拡大や生涯学習の充実などの方策が一応示されてはいるが、具体的な各国の対応は今後の課題とされた。

この点では、沖縄サミットや専門家会合でも検討がされる予定だが、情報化の光の面だけでなく、その影の部分にも注目して、教育面での対応を考えていくというスタンスは、これからの日本の教育を考えるうえで避けて通れない。世界的な規模で考えると、日本などの先進国が、発展途上国に対して、教育面でのような援助ができるかも問われてくることになりそうだ。

●新作ソフト

F＝16ミリ映画、V＝ビデオ。作品は文部省選定・特選作品より掲載

学校教育向

狂言・野村万蔵

F・五〇分、中学校・高校、特別活動、桜映画社・03-3478-6100

「狂言ひとすじに生き、重要無形文化財保持者（人間国宝）」である野村万蔵氏。「大名物」や「太郎冠者物」といった氏がもつとも得意とする舞台を見せながら、狂言とは何かを描くとともに、一門の後継者への芸の伝承や稽古の様子をとおり、狂言が伝える技と心について感じとらせている。

西ヨーロッパの都市の暮らし

オランダ V・一六分、中学校、社会、内田洋行・03-3555-4185

オランダの国土の概要や、首都アムステルダムの様子について説明するとともに、アムステルダムで暮らす家族を訪ね、朝食の様子や、子どもたちの学校での生活、放課後の過ごし方、家族の団らんとといった一日の生活をとらえ、さらにセント・ニコラス祭などオランダの祝日について紹介している。

オーストラリア発見 2000年版
V・五〇分、中学校、社会、豪日交流基金・03-5232-4063

オーストラリアと日本の固有の

関係をキーワードに、オーストラリア人の生活様式と社会、古代から現代までの歴史、多民族・多文化主義、中学生の家庭や学校での生活、独特な植物と動物、貿易と産業など、さまざまなテーマをとりあげ説明している。

社会教育向

その先の光へ

F・四五分、青年・成人、地域社会生活、映像鎌倉・0467-478551

行きずりの中年女性を突き倒して大怪我を負わせ、保護観察処分となった一七歳の少女が、保護司とのかかわりの中で、これまでの行動を反省し立ち直っていく姿を描いたもの。保護司の役割とその意義、青少年の非行化防止と地域のあり方などをとらえている。

おばあちゃんありがとう

F・五二分、少年・青年・成人、地域社会生活、共和教育映画社・06-6312-2645

差別で文字を奪われながらも一生懸命生きてきたおばあちゃん。そんなおばあちゃんの姿から、人間として大切なことを学びとった家族や周囲の人々が、それぞれに新たな生活へと旅立っていく様子

を描いたもの。同和問題を自分の問題としてとらえ、明るい地域社会をめざす大切さを訴えている。

灰色熊ワープの一生

F・四六分、少年、教養情操、教配・03-3571-9351

シートン原作「灰色熊ワープの一生」を素材に映画化したもの。突然のライフル銃で母熊と兄弟に死別し、ひとりぼっちになった仔熊のワープが、厳しい大自然の中で、さまざまな危険を乗り越え、たくましく生きていく様子をアニメーションで描いている。

聴く喜び 話す喜び

V・三一分、成人、地域社会生活、東京シネビデオ・03-3242-3151

在宅福祉を支える友愛活動の推進を目指し活動する老人クラブ。その活動を行う上で基本となる話し合いに焦点をあて、上手な聴き方や話し方ができるためのポイントを、各地における訪問活動の事例や、専門家の助言をまじえ具体的に解説している。

民族紛争の真実

V・二〇分、青年・成人、国際性、紀伊國屋書店・03-309-5297

かつてユーゴスラビアといわれた

国の一部ボスニア・ヘルツェゴビナ。独立に際し、その是非をめぐるおきたボスニア内線で、最も激しい戦いとなった首都サラエボの様子を描き、民族と宗教の利害がぶつかり合う形で勃発した内戦の概要とその悲惨さを訴えている。

ストップ！職場のセクシユアル

ハラスメント V・五二分、成人、職業生活一般、東京シネビデオ

「管理職編」「従業員編」の全二巻よりなるもの。前者は、職場におけるセクシユアルハラスメントの防止と管理職に求められる役割を、後者では、同じ職場で働く仲間としてのあり方などを、それぞれドラマ形式で描き、防止のポイントについて説明している。

ユネスコ世界遺産 第二巻

V・四二分、青年・成人、教養情操、ユナイサル・03-3487-1498

ハンガリー・ブタペストのドナウ河岸とブダ城、クロアチア・スプリトの史跡群とディオクレティアヌス宮殿、クロアチア・ドゥヴロヴニクの旧市街など、世界遺産として指定保護されているハンガリーとクロアチアの遺跡・建造物について説明している。

やってみようなんでも実験

教育テレビ(金)一八:五〇〇〜一九:一五/再放送(土)一〇:三〇〇〜一〇:五五、翌週(金)(土)の同時刻

☆FAX情報〇三二五五四四一〇八八八/情報番号二三三〇

二日・三日・九日・一日
「ふわりと舞い上がれ!ゴム動力ヘリコプター」

実験名人:藤原瑞吉(日本室内航空機連盟)

回転翼が生み出す揚力で飛び上がり、小回りもホバリングも自由自在というのが、ヘリコプターの魅力!今回の名人は、ヘリコプターが飛ぶ原理を、「ゴム動力の模型」を使って見せてくれる。どのような原理で浮上し、前進、後退や旋回ができるのか?尻尾のプロペラはどんな役割を果たしているのか?ヘリコプター特有のしくみと動作を実験で解きあかしていく

一六日・一七日・二三日・二四日「はいち〜ズ!超パノラマ・ピンホールカメラ」

平塚ろう学校高等部教諭)

写真はパノラマ、テレビはハイビジョン!いま横長のワイド画面が人気である。究極のワイドといえば「360度・全周画面」!それをなんとピンホールカメラで撮影する名人が登場し、レンズを使わず、構造が単純で、どの距離にもピントが合うという便利な特性を見せる実験を繰り広げる。

中学生日記

総合テレビ(日)八:三〇〜八:五七/再放送 教育テレビ翌週(日)一八:二五〜一八:五二
※内容に変更が生じる場合があります。

四日「シリーズ 学校は変わるか?」体育祭はだれのもの?」

このシリーズでは、中学生の側から、身近な問題をもとに学校がどう変わっていったらいいかを考えていく。自主性を尊重する体育祭を模索しはじめるまでの心の成長を描き、学校を変えるには生徒自身の声が尊重されなければならぬことを訴えていく。

一日「シリーズ 学校は変わるか?」本音を聞いてくれる人」

他人には、些細に見える問題に悩み葛藤する生徒の姿を通じて、「心の相談室」との心のつながりや中学校における「心の相談室」の存在を描く。

一八日「シリーズ 学校は変わるか?」仮面クラス」

「構成的グループエンカウンター」を紹介し、「相手を尊重しつつ、本音で語れる「個」を育てる場に学校が変わってゆく可能性について考えていく。

二五日「シリーズ 学校は変わるか?」名前の由来」

実際に行われた授業をモチーフに、総合的学習をめぐり試行錯誤する教師と戸惑う生徒のやりとりを追いながら、生徒が心の成長をとげる姿を描く。

親の目子の目

※放送の曜日・時間は地域によって、異なります。(放送についての問い合わせ)〇三二五四〇〇一 九三〇一

一四七六回

五日「カタクリの里」

写真家の瀬川さんは岩手の山間に住み、四季の風景の撮影を続けている。小学生の息子二人にも肌で自然と文明の恩恵を理解してもらおうと、月に一度まったく電気を使わない日を設けた。しかし、成長するにつれ他の家庭とちがう風習に、子どもたちは戸惑いを感じ始めた。

一四七七回 (岩手放送)
二日「昼休み なにしよん!?」
「昼休み」...学校で子どもはどのように過ごしているのだろうか。子どもが学校生活の中で、ホッとできる時、それが「休み時間」。

「昼休み」をウォッチングし、「今」を生きる子どもたちの実態に迫る。
一四七八回 (南海放送)
一九日心の叫び!引きこもる魂」
自宅に引きこもってしまう、引きこもりの子どもや、その家族の叫びを詳細に取材し、引きこもりの現状や背景を探る。

一四七九回
二六日

平成一一年度「親の目子の目」
文部大臣賞受賞作品(再放送)

ホームページを知る・使う —総合学習編—

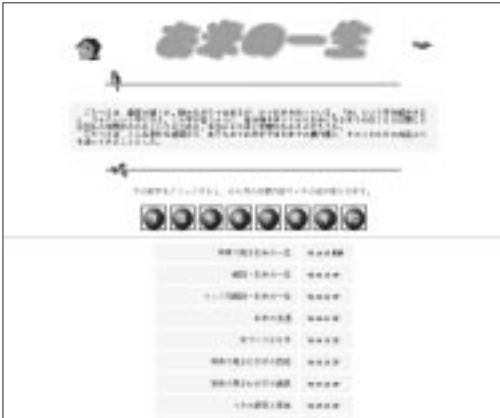
全国視聴覚教育連盟 松田 實

体験学習のひとつとして、毎日食べているお米を取り上げ、実際に米づくりや米の消費について、地域の実態に合わせて研究する時に役立つ「お米の一生」と「お米の消費と調理法」を紹介する。

活用可能分野 地域の課題 食生活 自由研究 キーワード 食糧庁 米作(稲作) 米消費

「お米の一生」

<http://www.ic-net.or.jp/home/gorobe/rice/>



ここで取り上げたホームページは、山形県新庄市の米づくりの作業やイネの生育の様子を写真で紹介しており、児童向けの解説もある。

しかし、その程度なら、他にもたくさんあるが、このホームページの大きな特徴は、昔の米づくりの過程を苗づくりから収穫までの作業項目に分け、作業項目をクリックすると、その作業を当時の写真で見ることができたり、昔の米づくりの農具を写真や絵を使い、分かり易く解説している点である。

地域にもよるが、どの学校でも農家の方々の指導を受けながら、植え付けから収穫までを体験させるのだろうが、難しい仕事や大切な管理の部分は、大人まかせで、楽な作業や易しい目立つ作業だけを子どもたちが体験するという学習でなく、苦勞する作業やポイントとなる部分も子どもなりに体験させることが、お遊びではない本当の体験学習になると考える。

体験と重ね合わせて、このホームページから昔の米づくりの様子を調べ、米づくりの努力や工夫に気づかせたい。

「お米の消費と調理法」

http://www.rim.or.jp/ci/ja/okome/03/03_m.html



米づくりの体験学習を進めるにあたり、生産の切り口だけでなく、消費の問題も学習課題として取り上げることも考えられる。

とくに、地域の実態を考えた場合、自由研究として、お米の生産が消費のいずれかにシフトした学習課題を設定するのも良いだろう。

このお米のデータベース「お米の消費と調理法」では、年度別のお米の消費を表やグラフで紹介しているが、一番の特徴は、米飯学校給食、お米の栄養や味、ごはんの炊き方や日本全国のおにぎり、すしなどの項目から、お米の消費を日常生活と結びつけて、楽しく学習できることである。

「私たちの県はどんなおにぎりを食べているか」など、県をクリックするとその県の代表的なおにぎりが写真や絵で説明されているし、検索方法が簡単などところが良い。

体験学習のまとめで、収穫したお米を炊いてもらって食べて終わるのもよいが、もう一歩ふみ込んで、社会生活と結びつけて考える課題追求の姿勢も必要だろう。